

---

# 江別市高齢者総合計画の策定に向けた 実態調査

---

## 報告書概要版

平成23年3月

北海道江別市



## 〔目 次〕

調査概要 .....	1
調査結果	
1. 市民アンケート調査結果 .....	3
1.1 前回調査との比較 .....	3
(1) 第1号被保険者調査 .....	3
(2) 第2号被保険者調査 .....	9
(3) 居宅サービス利用者調査 .....	12
(4) 施設サービス利用者調査 .....	16
(5) 介護保険サービス未利用者調査 .....	20
1.2 調査対象の共通設問に関する比較 .....	22
1.3 二次予防事業対象者及びリスク該当者に関する分析 .....	25
2. 介護保険サービス提供事業者調査 .....	26
2.1 正規職員の割合 .....	26
2.2 提供しているサービスの規模について .....	26
2.3 各種基準の妥当性について .....	27
2.4 利用者・家族からの苦情 .....	27
2.5 円滑な事業運営を進める上での課題 .....	28
2.6 連携が必要な機関について .....	28
2.7 介護ボランティアの受け入れについて .....	29



# 調査概要

## 1 調査目的

- ・本市では、平成20年度において「江別市高齢者総合計画」を策定し、「江別市に住むすべての高齢者が自分の意思で、自分が望む生活を送ることができるよう地域全体で認め合い・支えあうまちづくりを目指す」という基本理念のもとで、「シームレス（継ぎ目のない）」という基本的な考え方を導入し、各サービスの充実を図ってきました。
- ・この間、要介護認定者および介護サービス利用者の増加などを背景に、介護給付費は全国と同様に増加傾向にあります。
- ・こうした背景などから、国では介護サービスの基盤強化のための介護保険法等の一部改正を予定しており、高齢者が地域で自立した生活が営めるよう、医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスが切れ目なく提供される「地域包括ケアシステム」の実現に向けた取り組みを推進することとしています。
- ・本調査は、こうした背景を踏まえ、平成23年度における新たな「江別市高齢者総合計画」の策定にあたり、現状における高齢者の方々などの生活実態や健康状態、介護保険サービスの利用状況、事業者の介護保険サービスの提供状況などを把握し、計画策定のための基礎資料とすることを目的として実施したものです。

## 2 調査対象

- ・上記の目的を達成するため、以下の江別市民を対象にアンケート調査を実施しました。

調査名	対象者
1. 第1号被保険者調査	調査基準日時点で要介護認定を受けていない介護保険第1号被保険者（65歳以上）
2. 第2号被保険者調査	調査基準日時点で要介護認定を受けていない介護保険第2号被保険者（40～64歳）
3. 居宅サービス利用者調査	調査基準日時点で要介護認定を受けている介護保険被保険者のうち介護保険施設に入所していない方
4. 施設サービス利用者調査	調査基準日時点で要介護認定を受けている介護保険被保険者のうち介護保険施設に入所している方
5. 介護保険サービス未利用者調査	調査基準日時点で要介護認定を受けている介護保険被保険者のうち介護保険サービスを利用していない方
6. 介護保険サービス提供事業者調査	調査基準日時点で介護保険サービスを提供している江別市内の事業者

### 3 調査方法

- ・ 郵送による配布・回収によりアンケート調査を実施しました。

### 4 調査基準日

- ・ 平成23年 1月 1日

### 5 調査期間

- ・ 平成23年 1月20日～平成23年 2月10日

### 6 回収結果

- ・ 各調査のアンケート票回収数・有効回答率については、以下のとおりです。

	発送件数	回収数	無効 回答数	有効 回答数	有効 回答率 (%)
1. 第1号被保険者調査	990	669	0	669	67.6%
2. 第2号被保険者調査	990	485	0	485	49.0%
3. 居宅サービス利用者調査	1,800	1,041	85	956	53.1%
4. 施設サービス利用者調査	450	284	15	269	59.8%
5. 介護保険サービス未利用者調査	600	335	42	293	48.8%
6. 介護保険サービス提供事業者調査	115	81	0	81	70.4%
合計	4,945	2,895	142	2,753	55.7%

### 7 報告書の見方について

- ・ 単数回答の質問については円グラフ・帯グラフで示し、複数回答の質問については横棒グラフで示しています。
- ・ 質問に対して回答がなかったものを「無回答」と表記しています。割合は無回答分も含めています。
- ・ 率表示の数値は四捨五入しているため、単数回答の項目でも合計が100%にならない場合があります。
- ・ 調査対象が限定される項目については、回答対象者数を示すため、グラフ中に【n= 】を記載しています。同標記の記載のないグラフは、すべての対象者が回答するもので、nは上記表の有効回答数となります。

# 調査結果

## 1. 市民アンケート調査結果

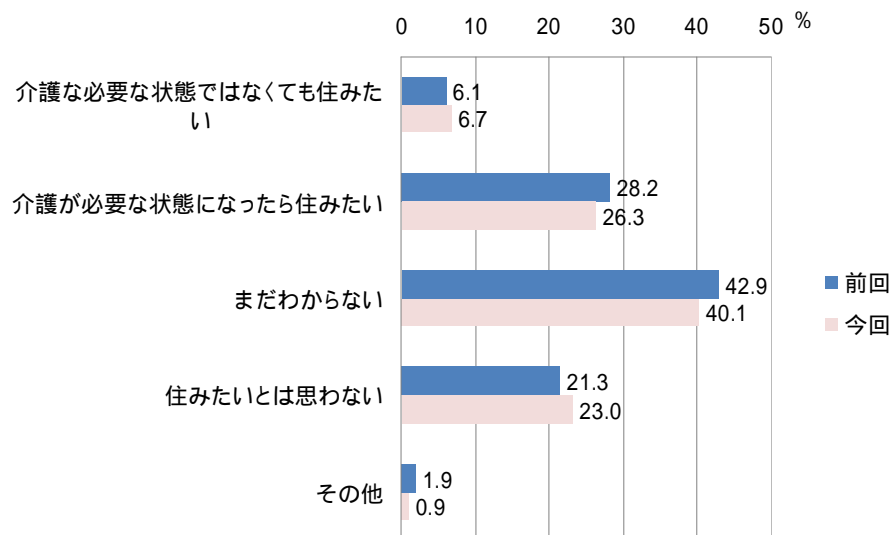
### 1.1 前回調査との比較

- ・各調査対象別に前回調査（平成19年度実施）と本調査のおもな共通設問項目について、比較した結果を掲載しました。

#### (1) 第1号被保険者調査

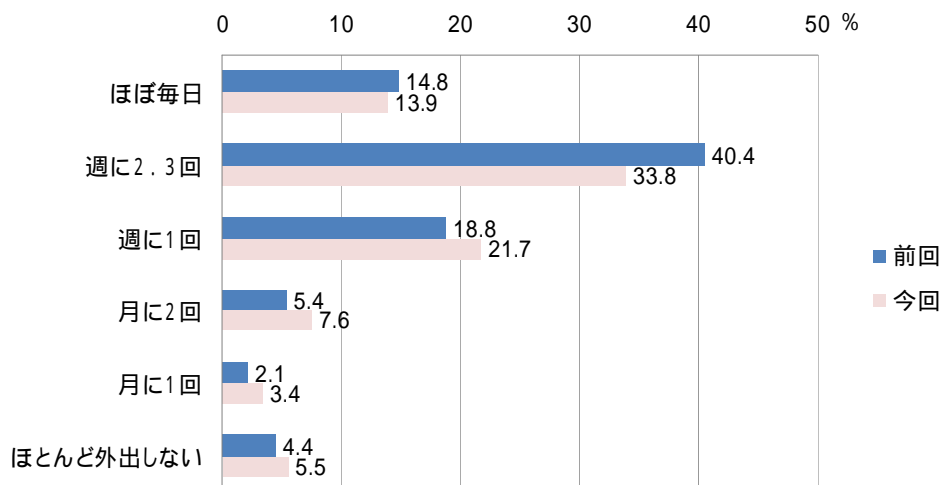
##### ケアサービス付の高齢者住宅（マンション等）の居住ニーズについて

- ・前回、今回とも「まだわからない」が4割強で最も高くなっており、意識の変化は見られません。



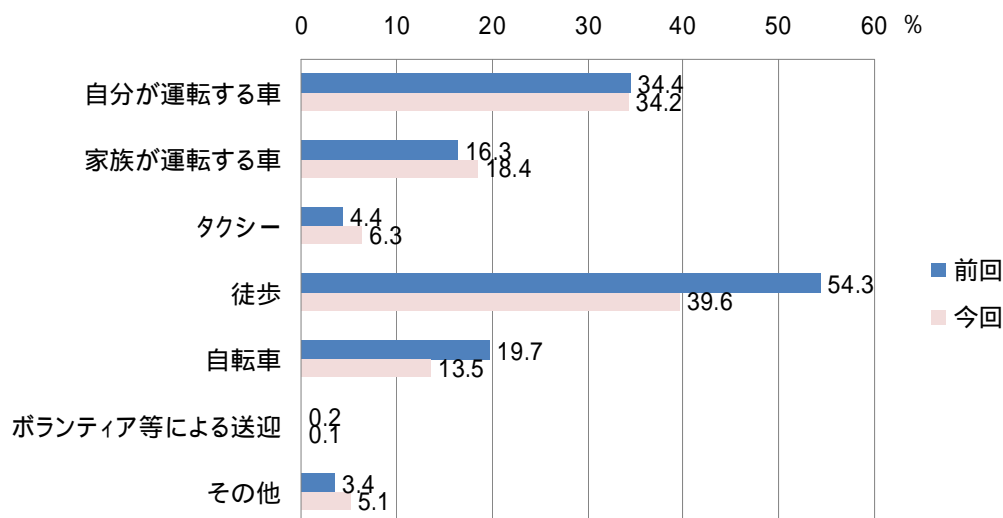
##### 買い物の頻度について

- ・前回に比べて「週に2～3回」の割合が低くなっています。



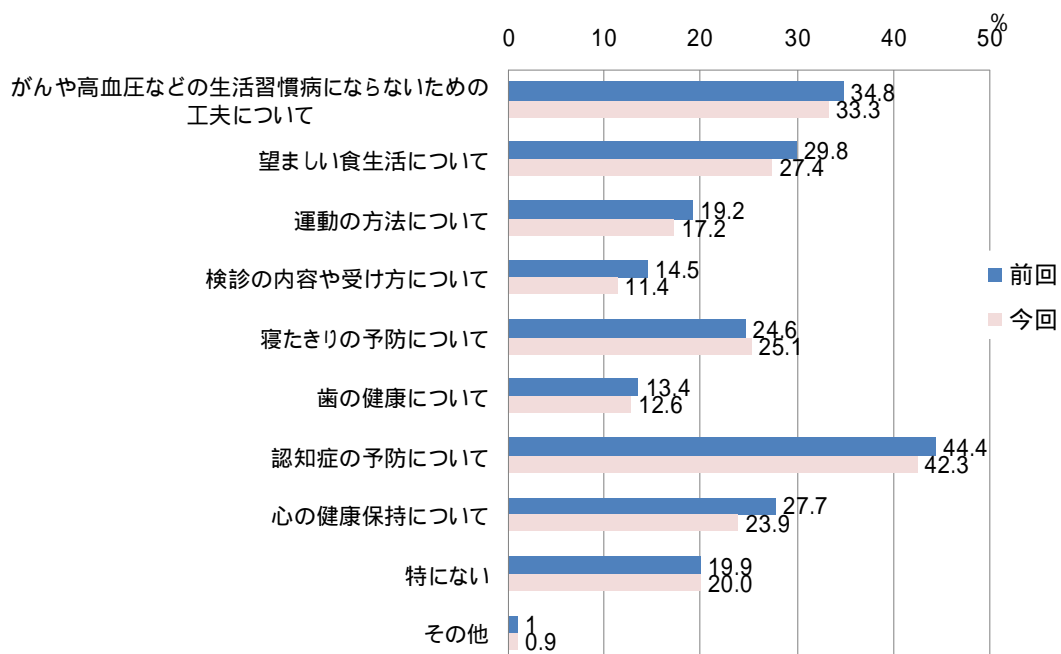
## 買い物の外出手段について

- ・前回に比べて「徒歩」の割合が15ポイント程度低くなっています。



## 健康づくりに向けて必要な情報について

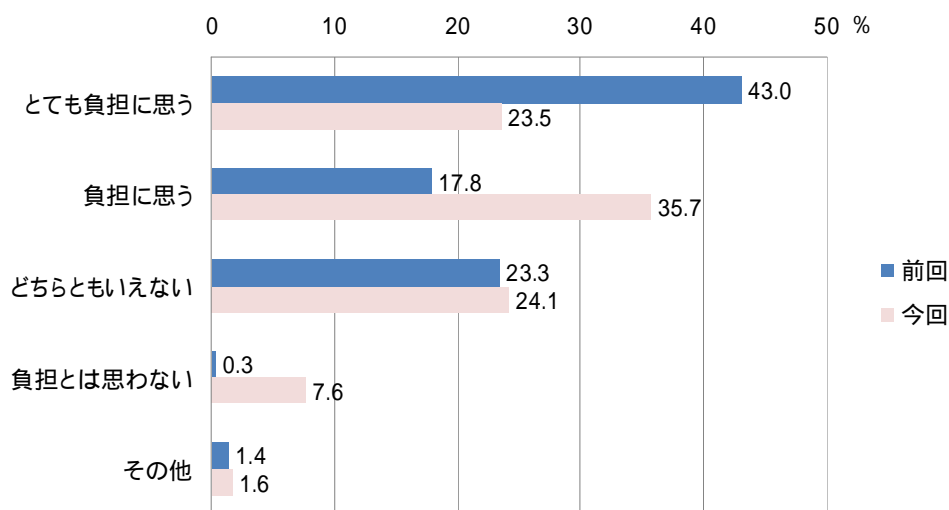
- ・前回、今回ともに「認知症の予防について」が4割強で最も多く、「がんや高血圧など生活習慣病にならないための工夫について」が次いでいます。





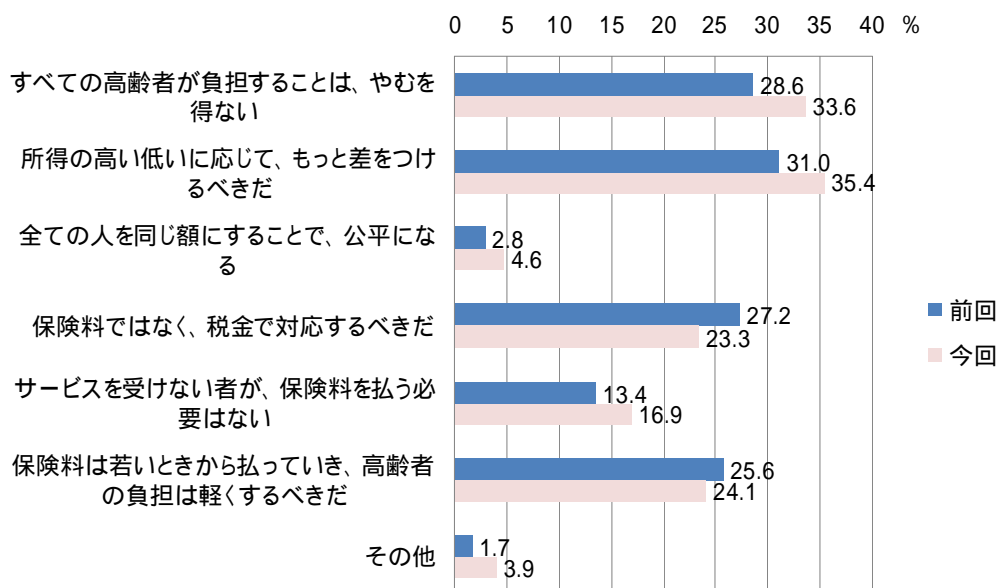
## 介護保険料の負担感について

- ・負担に感じている人の割合は前回、今回とも6割程度となっています。一方、負担に思わない人の割合は、前回よりも高くなっています。



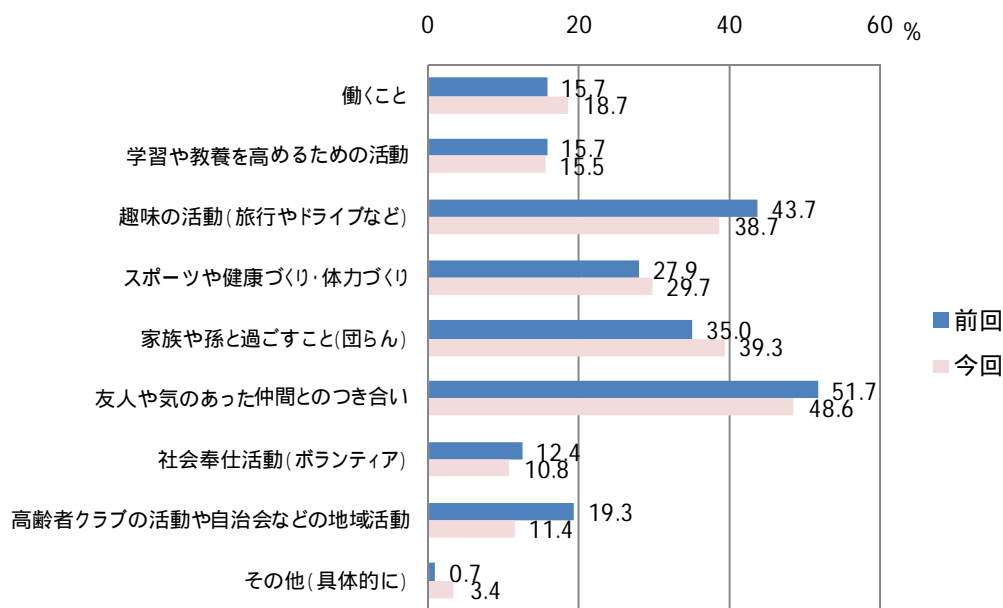
## 介護保険制度の仕組みに対する考え

- ・前回と同様に「すべての高齢者が負担することは、やむを得ない」、「所得の高い低いに応じて、もっと差をつけるべきだ」が前回より高くなっています。



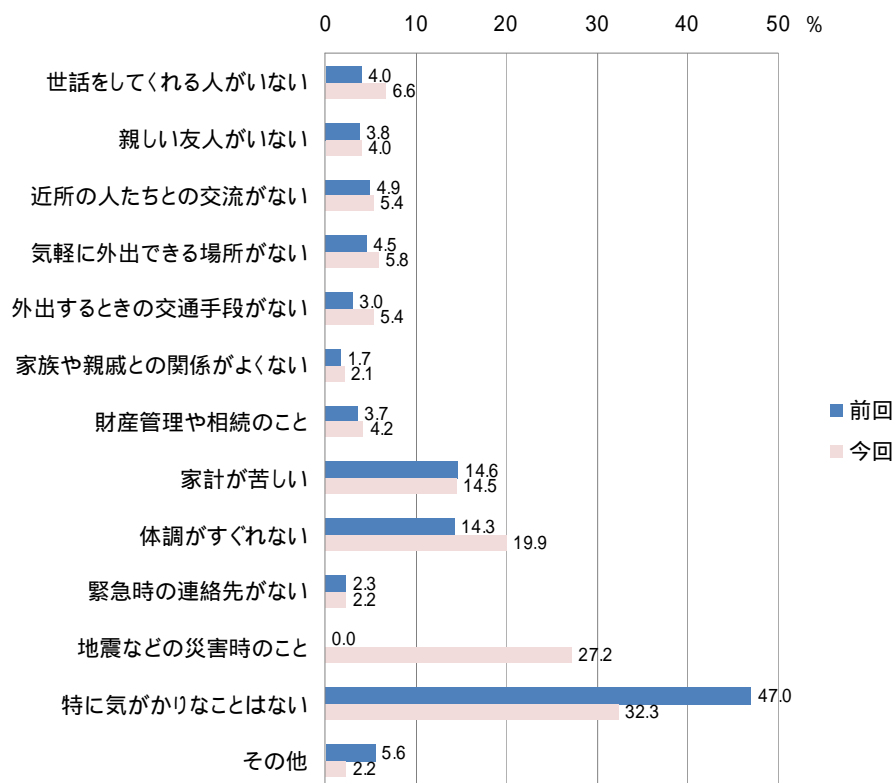
## 生きがいについて

- ・前回と同様に「友人や気のあった仲間とのつき合い」が最も高くなっています。



## 現在の悩み・不安について

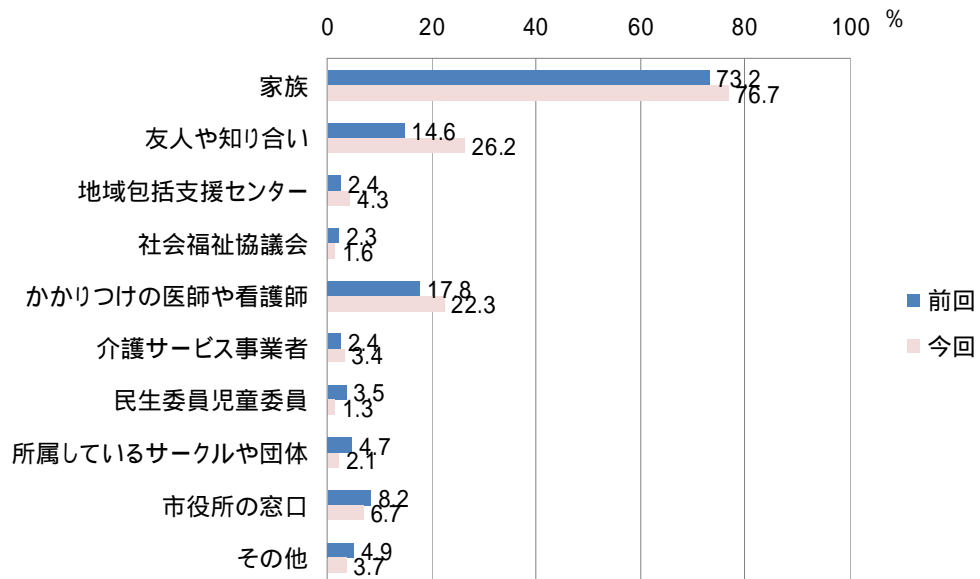
- ・「体調がすぐれない」が前回よりもやや高くなっています。また、「特に気がかりなことはない」は前回よりも15ポイント程度低くなっています。



「地震などの災害時のこと」は前回調査の選択肢には含まれていません。

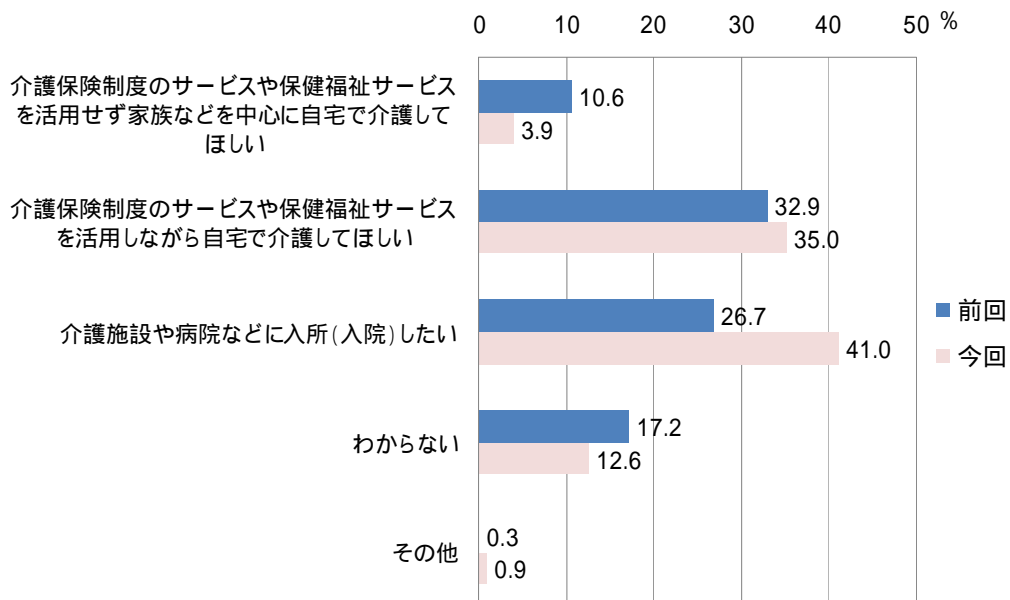
### 現在の不安・悩みの相談先について

- ・前回同様、「家族」が7割以上で最も高くなっています。「友人や知り合い」が前回よりも11ポイント程度高くなっています。



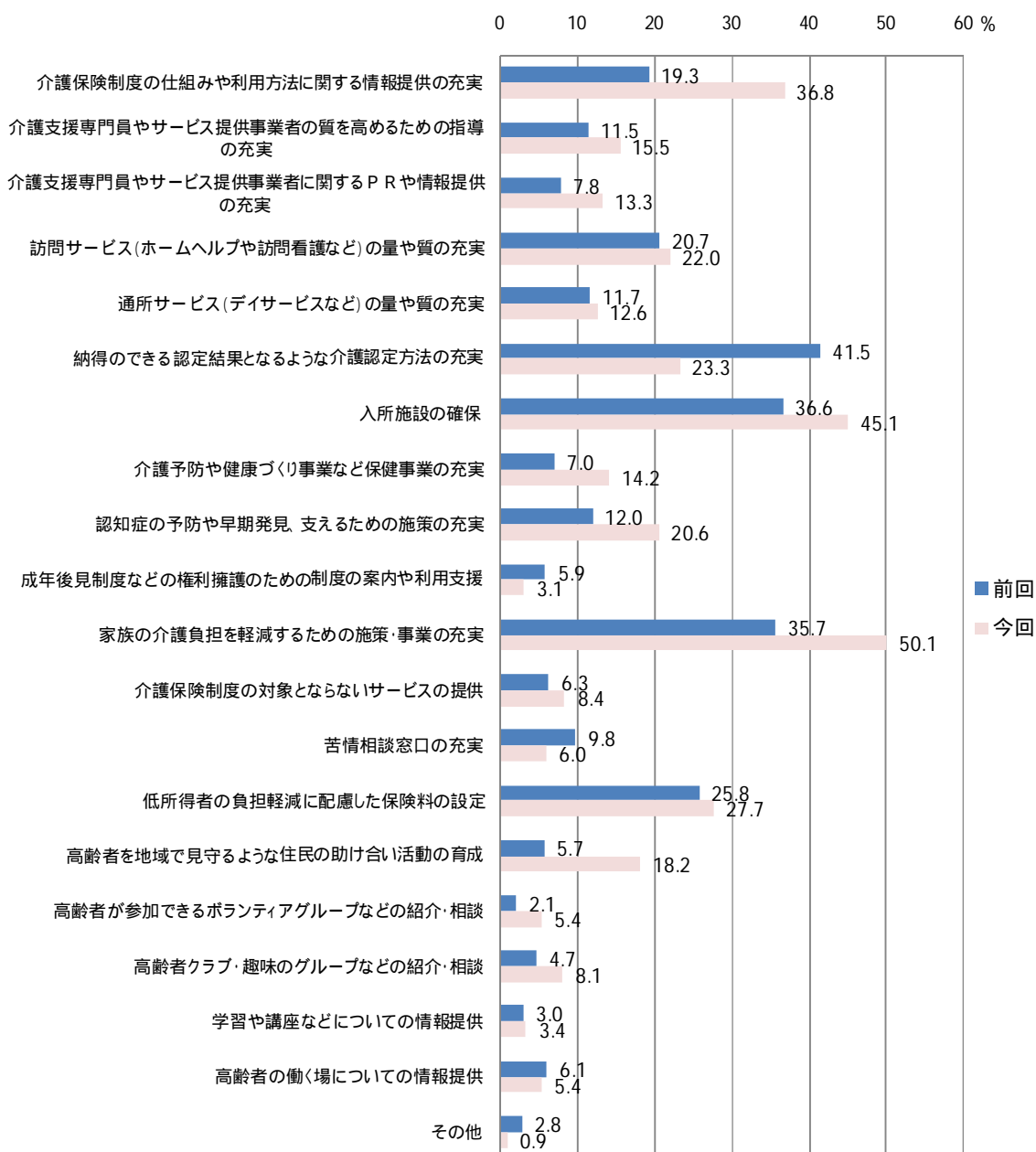
### 介護が必要になった場合の生活場所について

- ・前回に比べて、「介護施設や病院などに入所(入院)したい」が14ポイント程度高くなっています。



## 介護保険・高齢者施策のあり方に対する考えについて

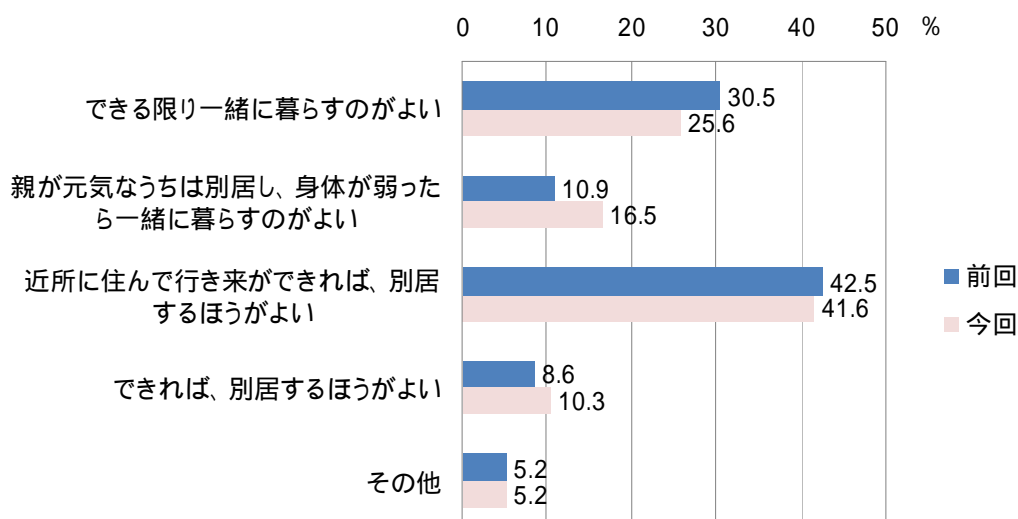
- ・前回と異なり、「家族の介護負担を軽減するための施策・事業の充実」が最も高く、前回よりも14ポイント程度高くなっています。
- ・また、「介護保険制度の仕組みや利用方法に関する情報提供の充実」、「入所施設の確保」、「認知症の予防や早期発見、支えるための施策の充実」、「高齢者を地域で見守るような住民の助け合い活動の育成」は、8～17ポイント程度高くなっています。



## (2) 第2号被保険者調査

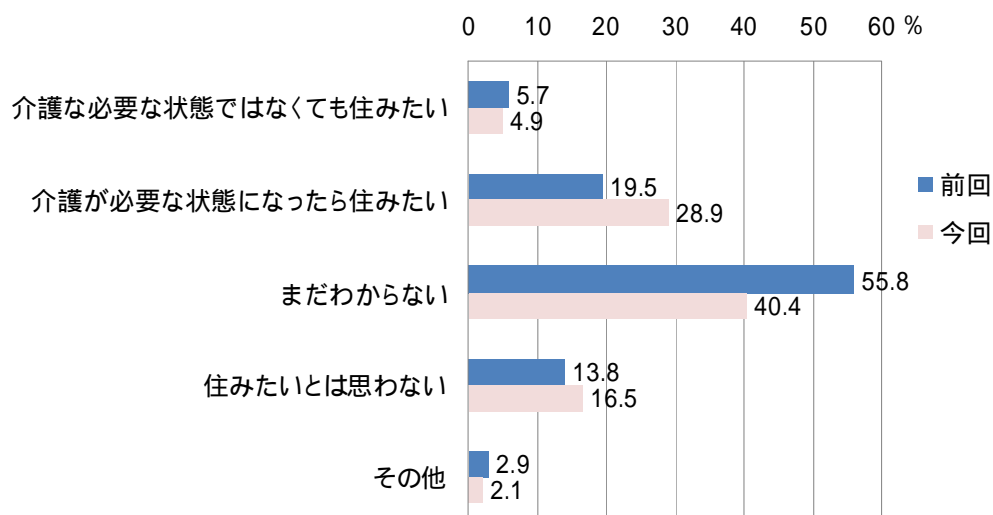
### 親子の同居についての考え方

- ・前回と同様に「近所に住んで行き来ができれば、別居するほうがよい」が4割程度で最も多くなっています。



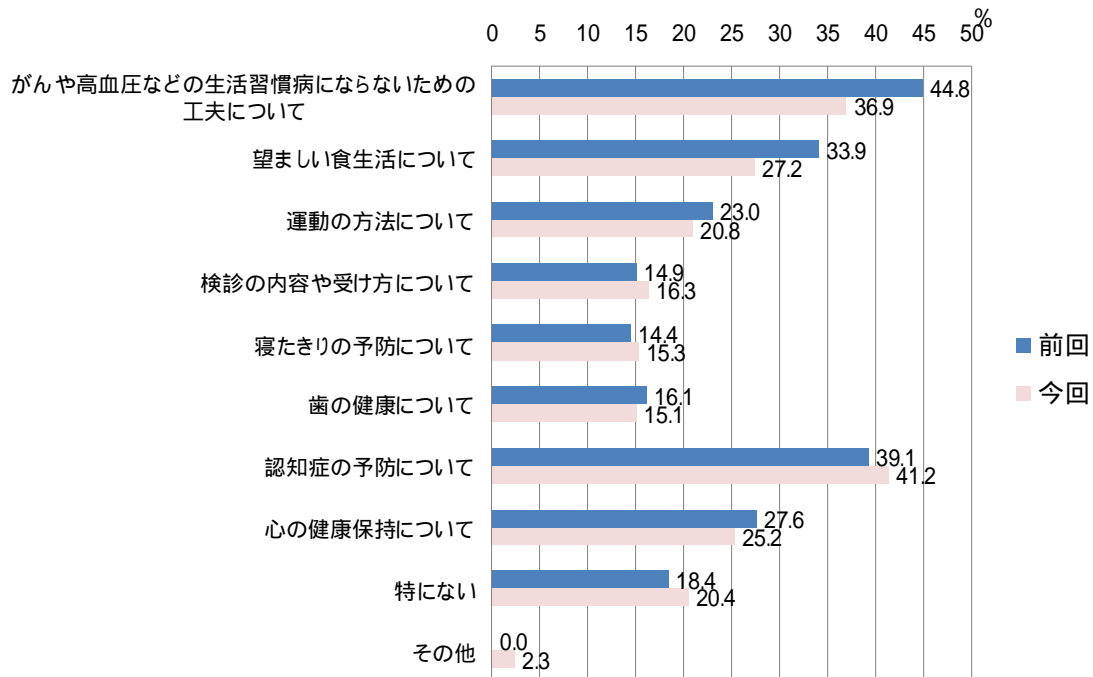
### ケアサービス付の高齢者住宅（マンション等）の居住ニーズについて

- ・前回と比べ、「まだわからない」の割合が15ポイント以上低くなっています。また、「介護が必要な状態になったら住みたい」の割合が10ポイント程度高くなっています。



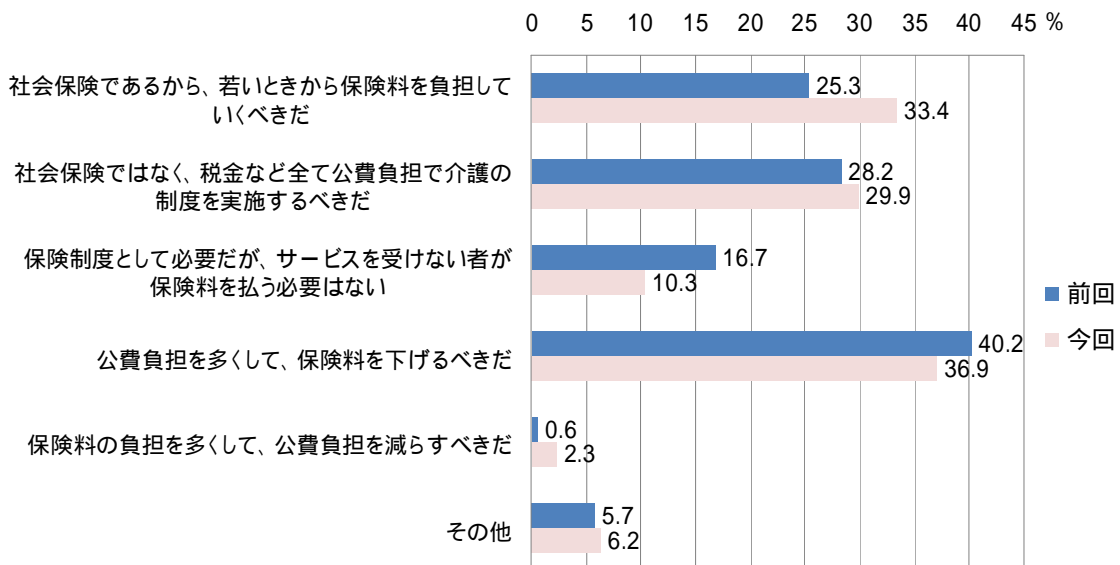
## 健康づくりに向けて必要な情報について

- ・「認知症の予防について」が今回は最も割合が高くなっており、前回同様4割程度となっています。



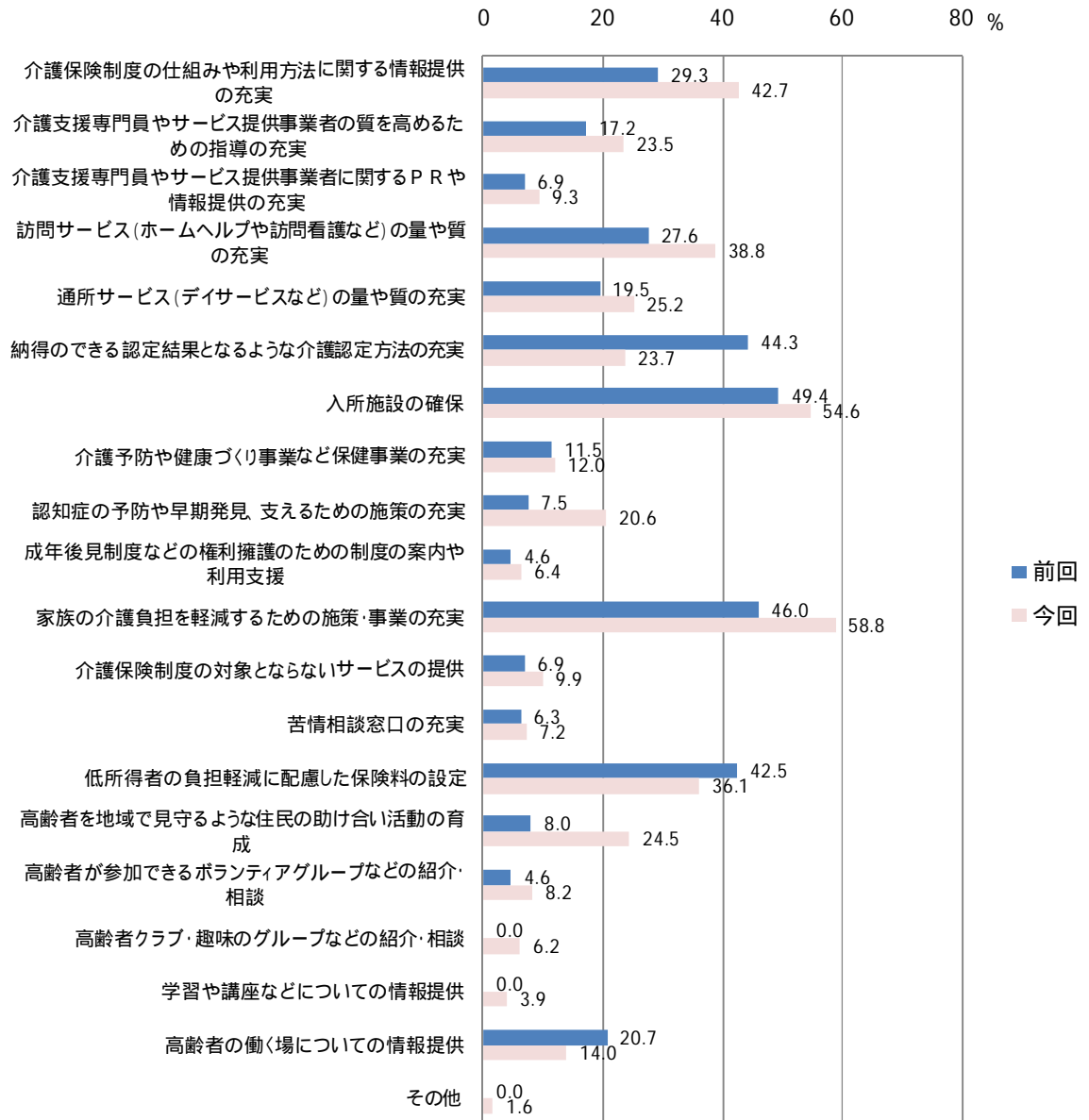
## 介護保険制度の運営費用に対する考え方

- ・前回に比べて、「社会保険であるから、若いときから保険料を負担していくべきだ」の割合がやや高くなっています。



## 介護保険・高齢者施策のあり方に対する考え

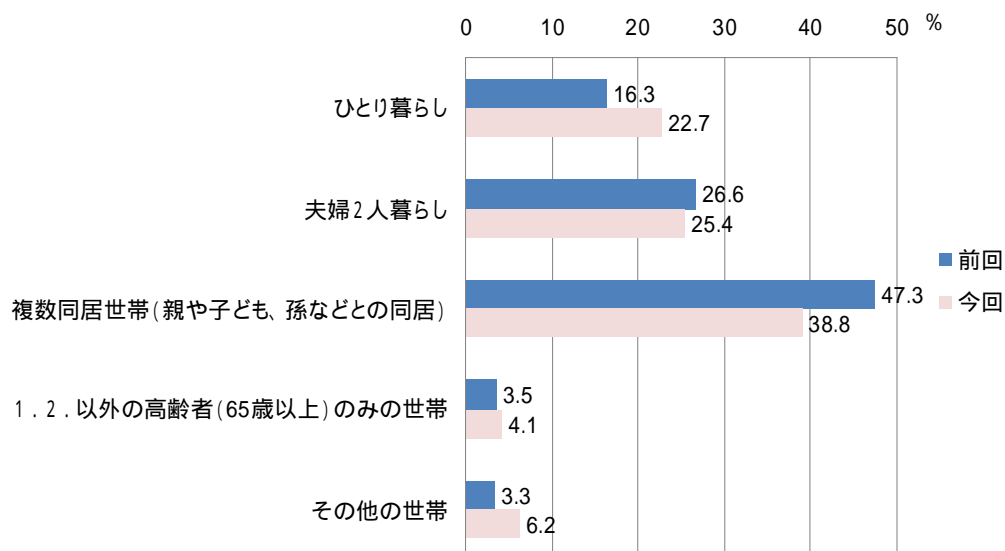
- ・前回と同様、「家族の介護負担を軽減するための施策・事業の充実」が最も高く、前回よりも13ポイント程度高くなっています。
- ・また、「介護保険制度の仕組みや利用方法に関する情報提供の充実」、「訪問サービス（ホームヘルプや訪問看護など）の量や質の充実」、「認知症の予防や早期発見、支えるための施策の充実」、「高齢者を地域で見守るような住民の助け合い活動の育成」は、10ポイント以上高くなっています。



### (3) 居宅サービス利用者調査

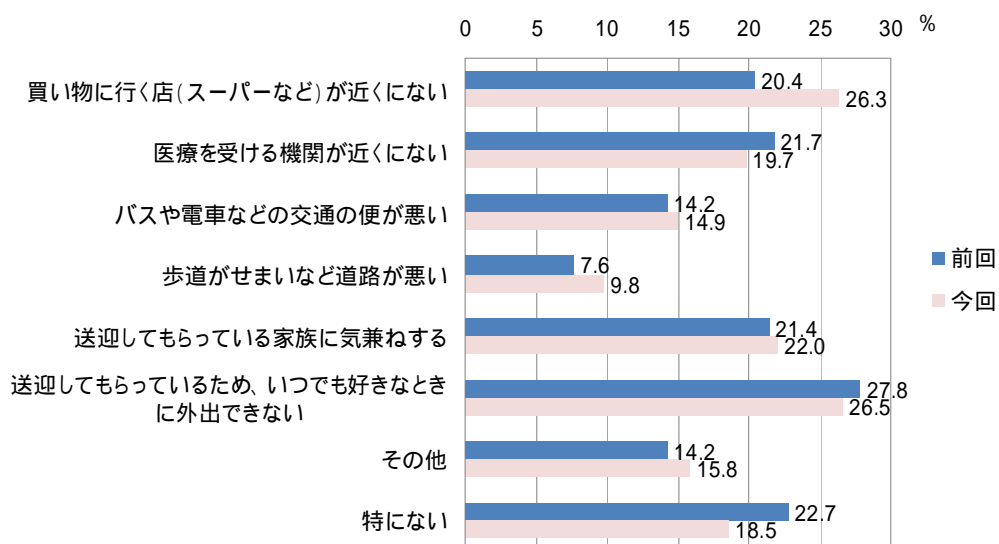
#### 世帯状況について

- ・前回に比べて、「複数同居世帯（親や子ども、孫などとの同居）」の割合が低下し、「ひとり暮らし」の割合が高くなっています。



#### 外出で不便に感じていること

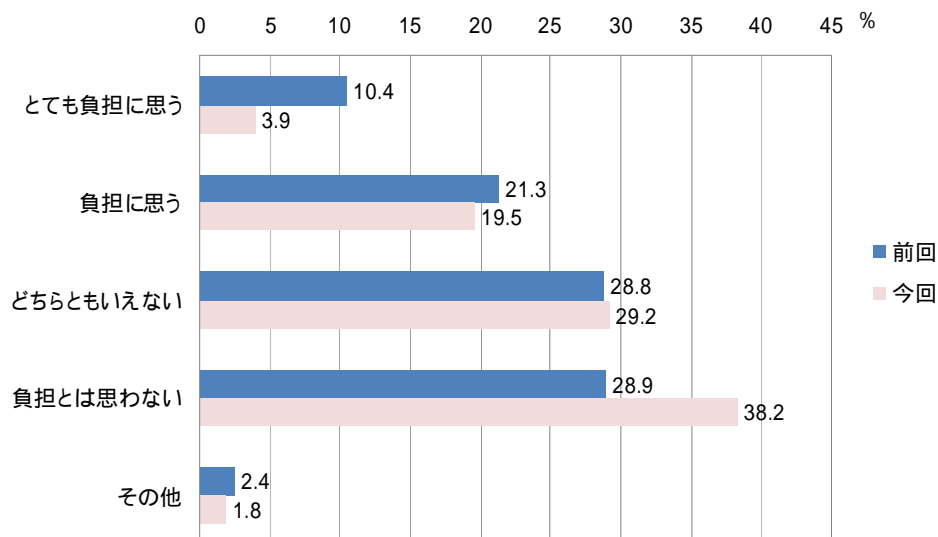
- ・「買い物に行く店（スーパーなど）が近くにない」の割合がやや高くなっており、「特にない」が低くなっています。





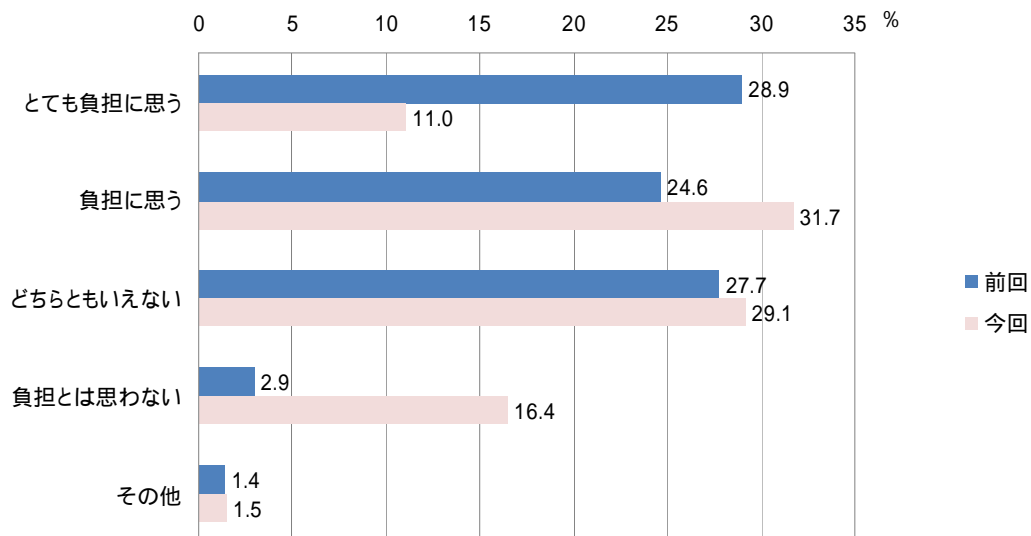
### 介護サービス利用料の負担感

- ・負担に感じている人の割合が前回よりも8ポイント程度低くなり、負担に思わない人の割合は、前回よりも10ポイント程度高くなっています。



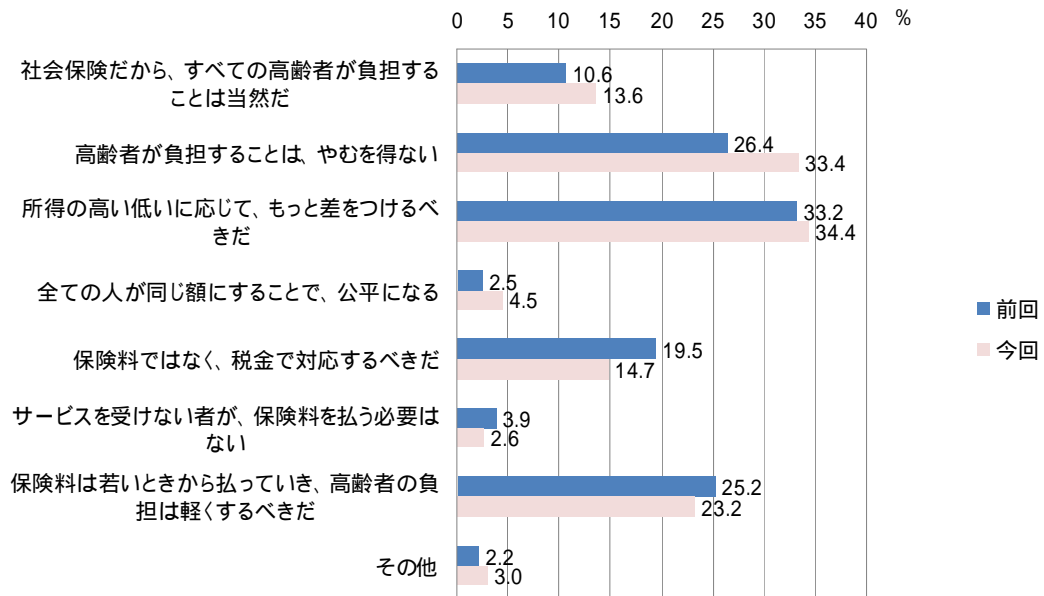
### 介護保険料の負担感

- ・負担に感じている人の割合が前回よりも10ポイント程度低くなり、負担に思わない人の割合は、前回よりも13ポイント程度高くなっています。



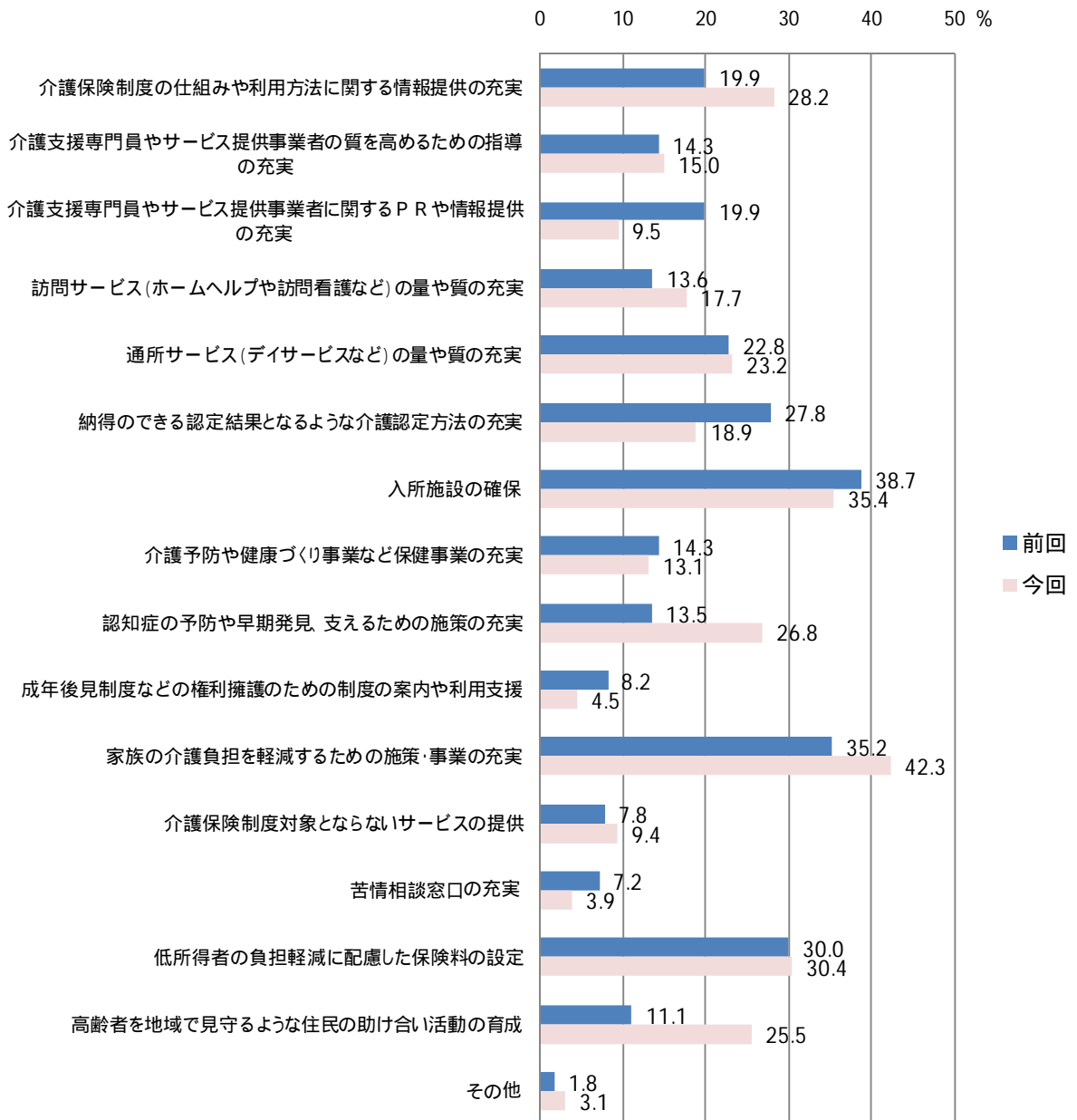
## 介護保険制度の仕組みについて

- ・ 前回に比べて大きな変化はありませんが、「高齢者が負担することはやむを得ない」の割合がやや高くなっています。



## 介護保険制度のあり方について

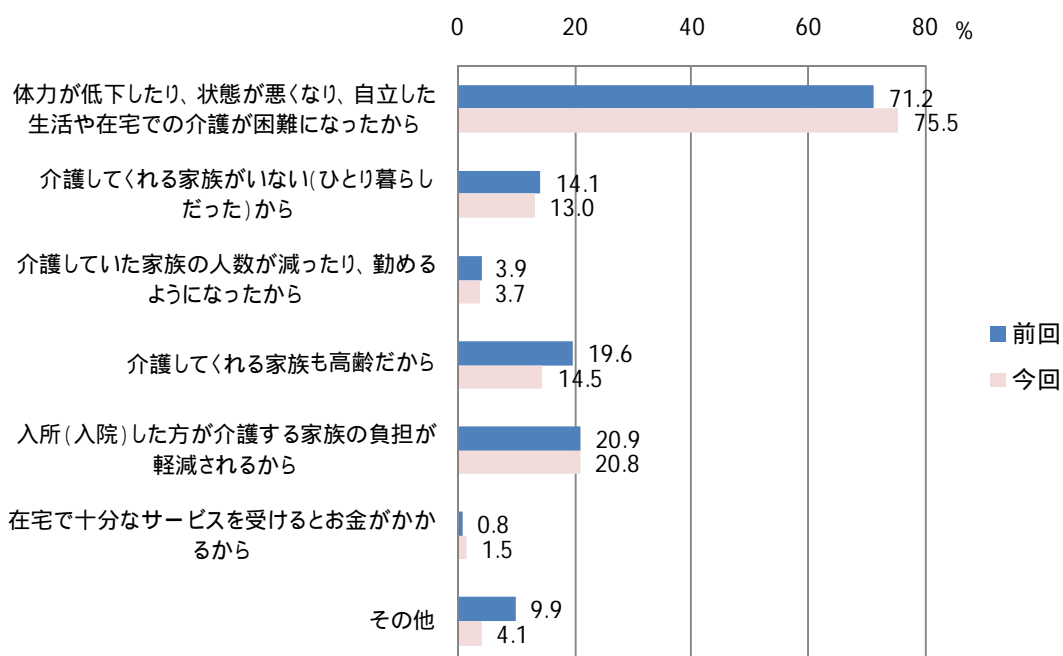
- ・前回と異なり、「家族の介護負担を軽減するための施策・事業の充実」が最も高くなっています。
- ・また、「介護保険制度の仕組みや利用方法に関する情報提供の充実」、「認知症の予防や早期発見、支えるための施策の充実」、「高齢者を地域で見守るような住民の助け合い活動の育成」は、8~14ポイント近く高くなっています。



## (4) 施設サービス利用者調査

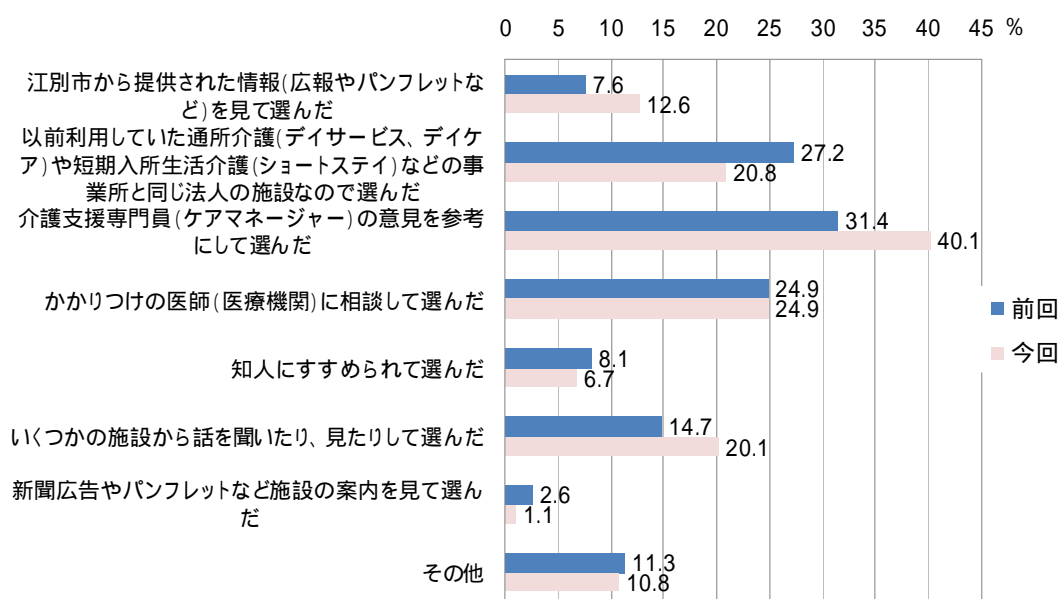
### 入所した理由について

- ・前回と同様「体力が低下したり、状態が悪くなり、自立した生活や在宅での介護が困難になったから」が7割以上で最も高くなっています。



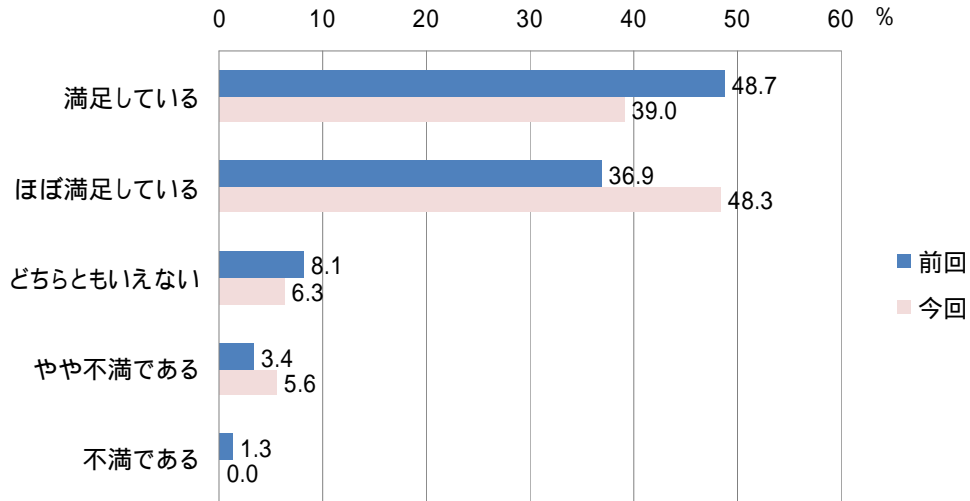
### 入所した施設の種類

- ・前回に比べ、「介護支援専門員(ケアマネージャー)の意見を参考にして選んだ」の割合が高くなっています。



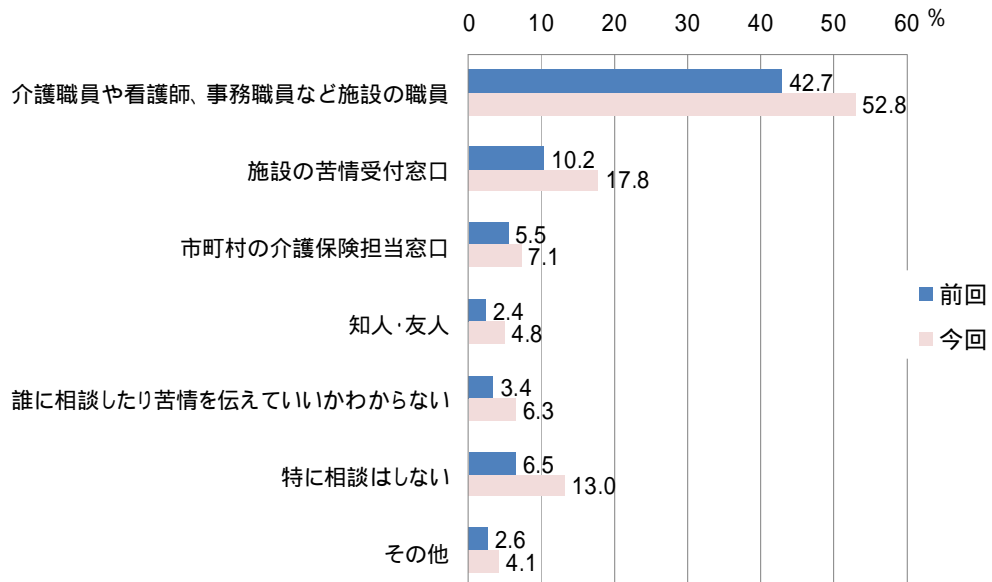
## 施設サービスの満足度

- ・前回に比べて「満足している」の割合が減り、「ほぼ満足している」の割合が高くなっています。



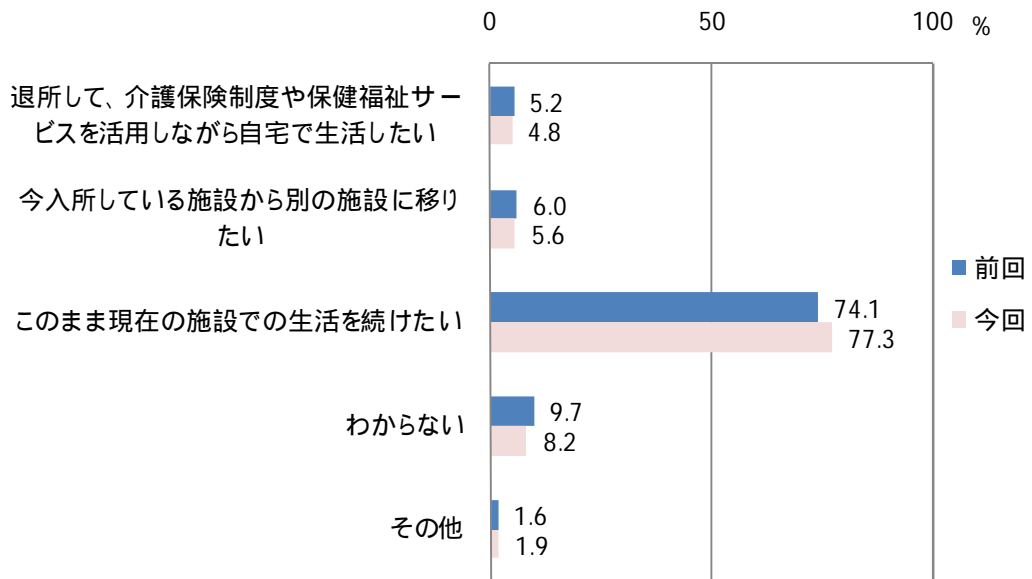
## サービスで不満があった場合の相談相手

- ・前回と同様に「介護職員や看護師、事務職員など施設の職員」の割合が最も高く、前回よりも10ポイント程度高くなっています。



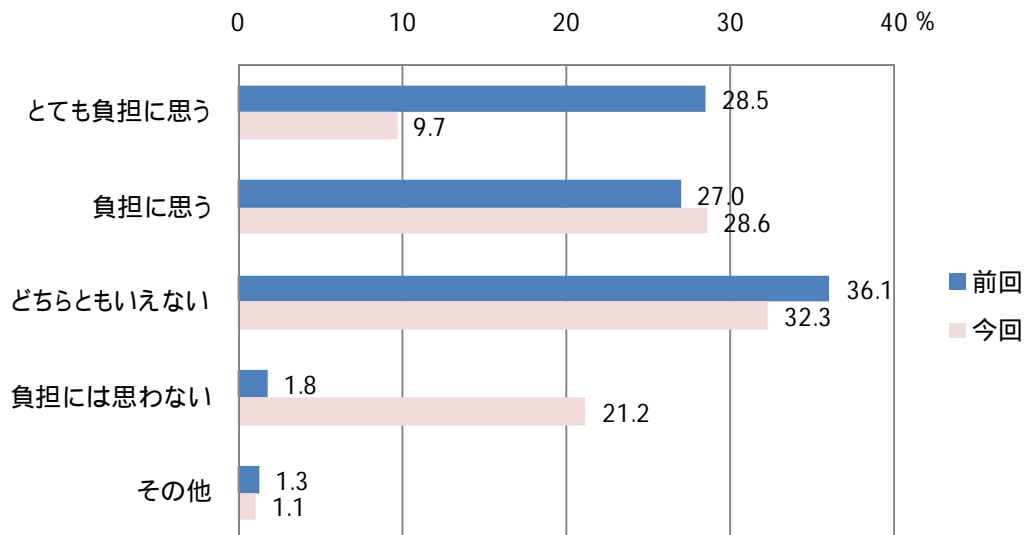
### 今後の生活について

- ・前回と同様に「このまま現在の施設での生活を続けたい」の割合が7～8割程度で最も高くなっています。



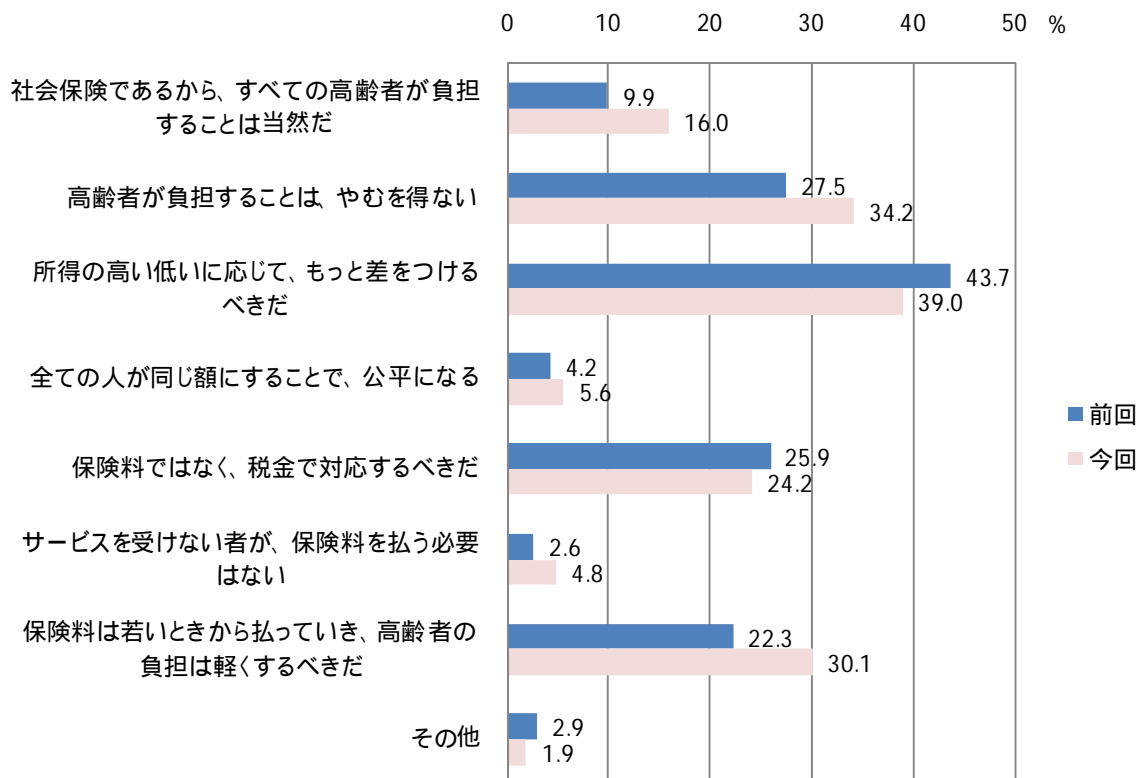
### 介護保険料の負担感について

- ・負担に感じている人の割合が前回よりも17ポイント程度低くなり、負担に思わない人の割合は、前回よりも19ポイント程度高くなっています。



## 介護保険制度の仕組みに対する考え

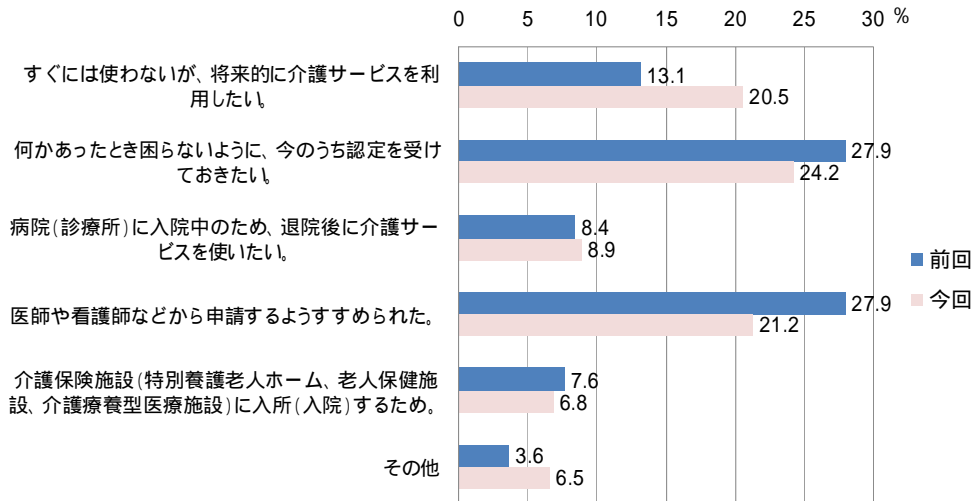
- ・ 前回に比べて、「保険料は若い時から払っていき、高齢者の負担は軽くするべきだ」、「高齢者が負担することは、やむを得ない」、「社会保険であるから、すべての高齢者が負担することは当然だ」等の割合がやや高くなっています。



## (5) 介護保険サービス未利用者調査

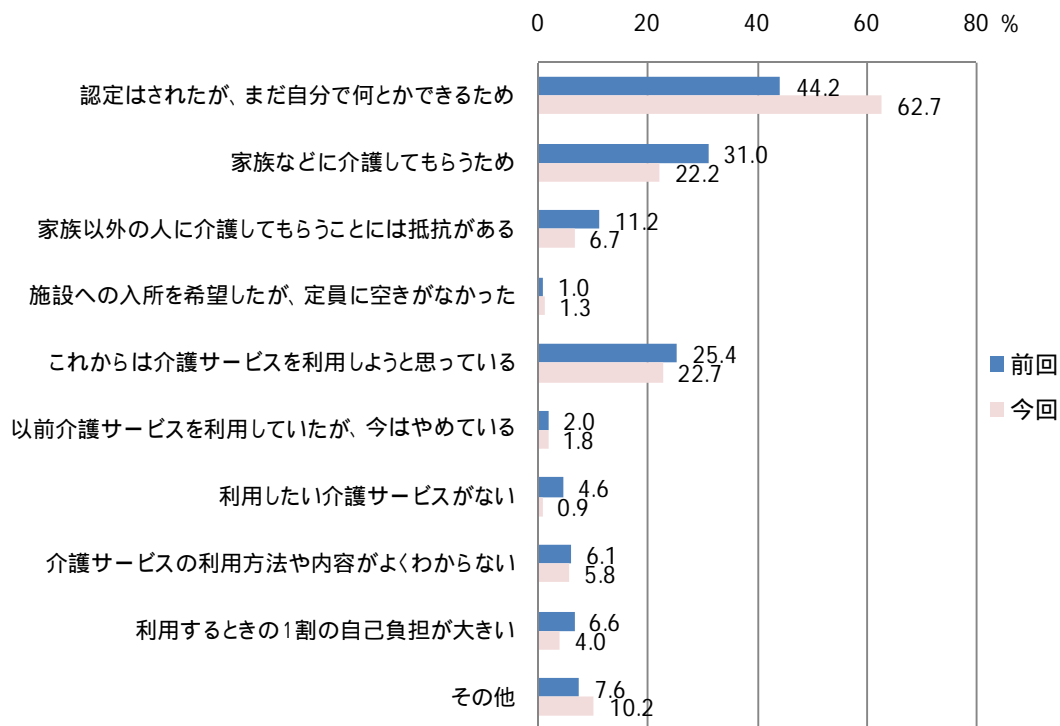
### 要介護認定を申請した理由

- ・前回に比べて、「すぐには使わないが、将来的に介護サービスを利用したい」がやや高くなっています。



### 介護保険サービスを利用しない理由

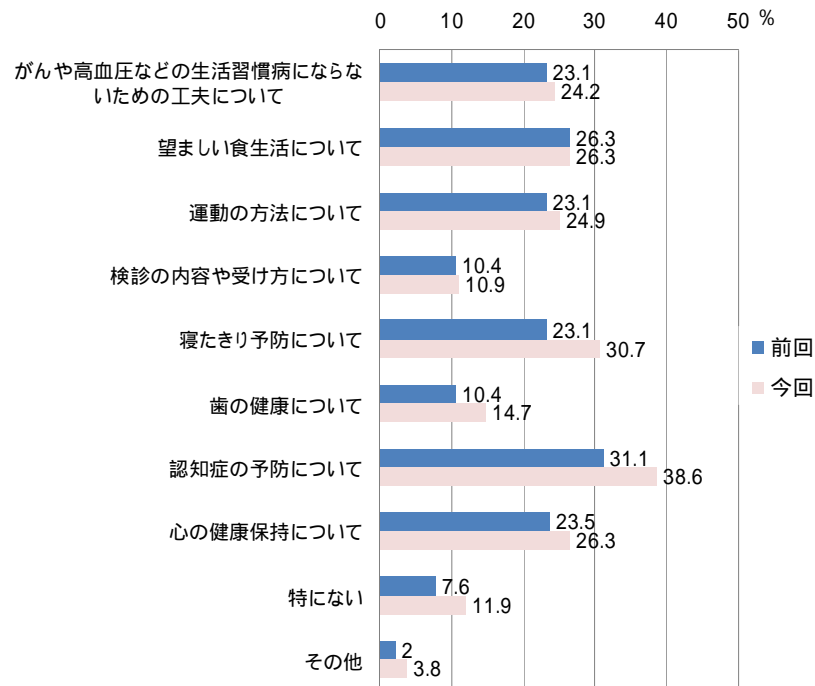
- ・前回に比べて、「認定はされたが、まだ自分で何とかできるため」が18ポイント以上高くなっています。





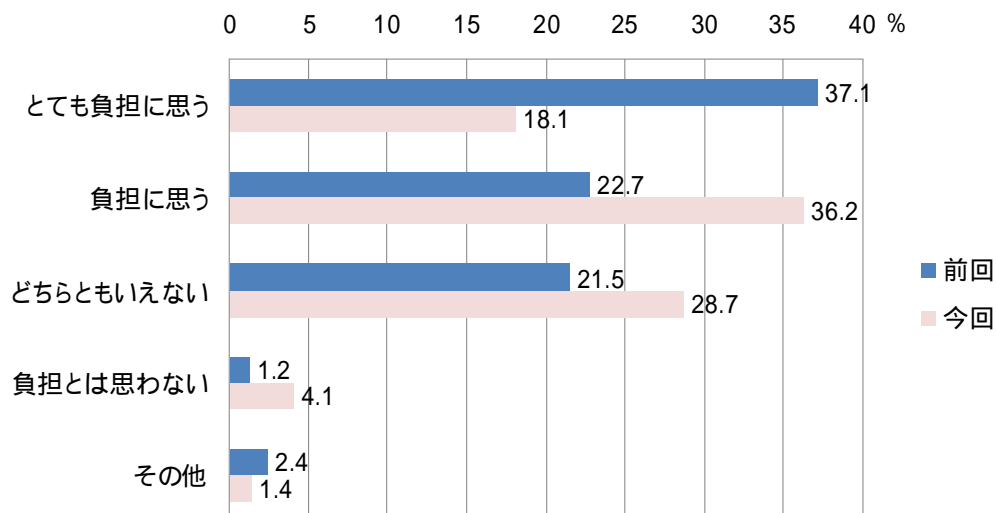
## 健康づくりに向けて必要な情報

- ・前回に比べて「認知症の予防について」、「寝たきり予防について」の割合がやや高くなっています。



## 介護保険料の負担感について

- ・個別の選択肢での比較はできませんが、負担に感じている人の割合が前回よりもやや低くなっています。



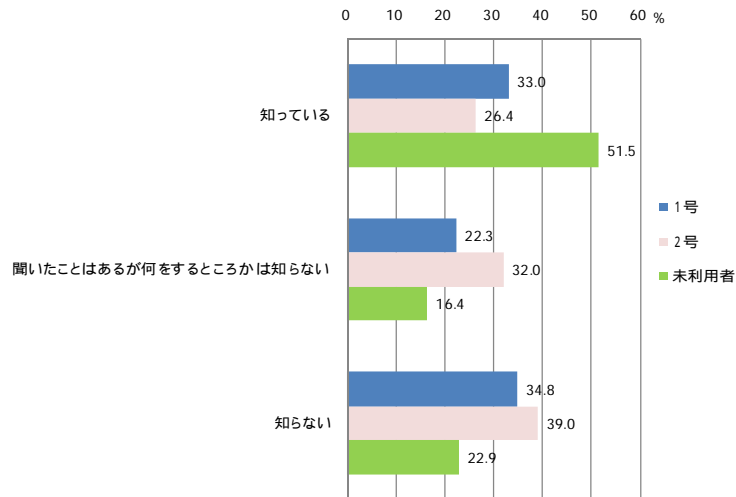
## 1.2 調査対象の共通設問に関する比較

- 各調査対象のおもな共通の設問について、比較を行いました。

### (1) 地域包括支援センターについて

【調査対象】第1号被保険者、第2号被保険者、介護保険サービス未利用者

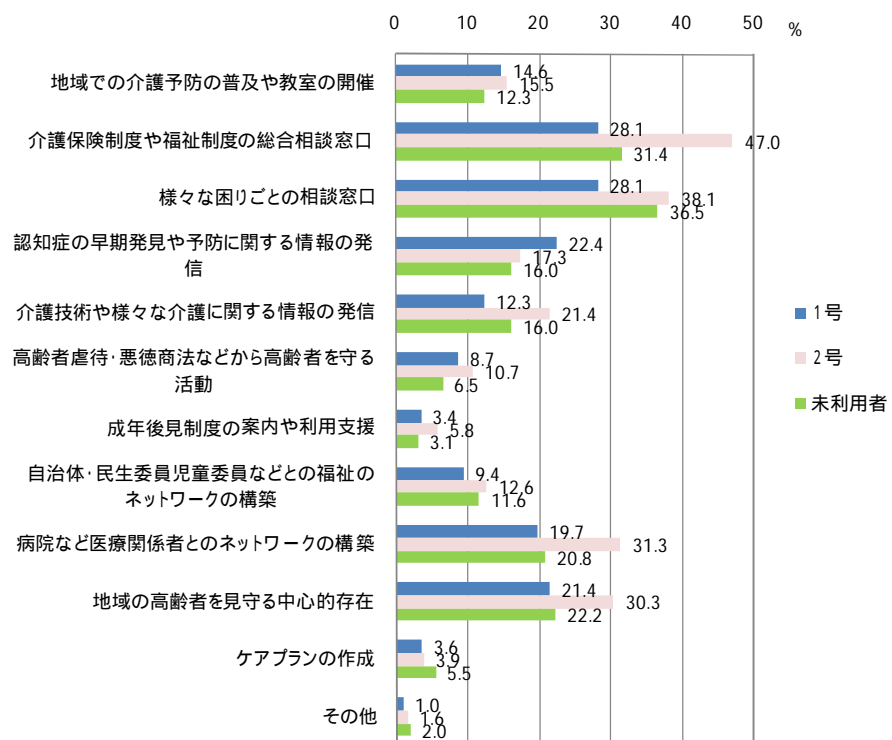
- 介護保険サービス未利用者は、「知っている」の割合が第1号被保険者、第2号被保険者よりも19~25ポイント程度高くなっています。



### (2) 地域包括支援センターに期待すること

【調査対象】第1号被保険者、第2号被保険者、介護保険サービス未利用者

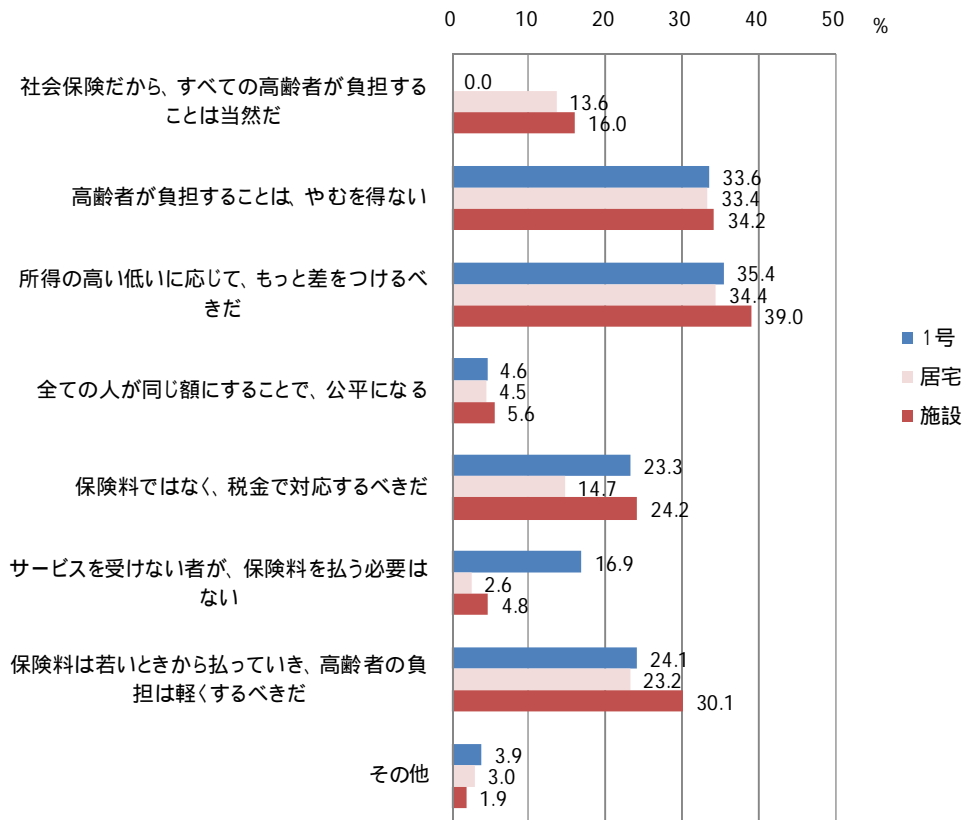
- 第1号被保険者は、「認知症の早期発見や予防に関する情報の発信」が、第2号被保険者は、「介護保険制度や福祉制度の総合相談窓口」、「病院など医療関係者とのネットワーク構築」、「地域の高齢者を見守る中心的存在」の割合が他と比較して高くなっています。「ケアプランの作成」は未利用者が高くなっています。



### (3) 介護保険制度の仕組みに対する考え

【調査対象】第1号被保険者、居宅サービス利用者、施設サービス利用者

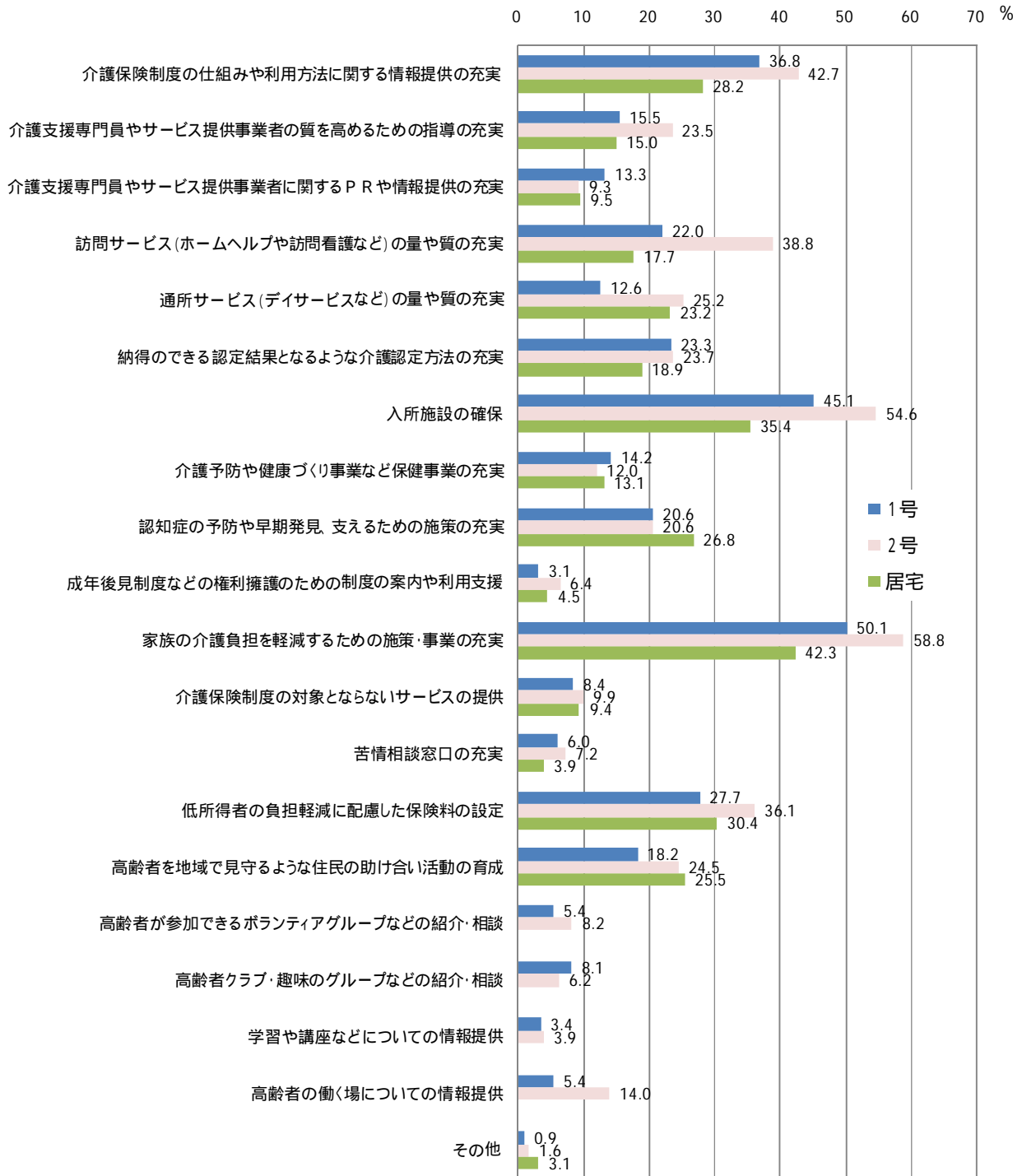
- ・全体的に大きな差は見られないが、第1号被保険者は、「サービスを受けない者が、保険料を払う必要はない」の割合が他の調査対象に比べて高くなっています。「社会保険だから、すべての高齢者が負担することは当然だ」は第1号被保険者の選択肢に含まれていない。



#### (4) 介護保険・高齢者施策のあり方に対する考え

【調査対象】第1号被保険者、第2号被保険者、居宅サービス利用者

・いずれの調査対象ともに「入所施設の確保」、「家族の介護負担を軽減するための施策・事業の充実」の割合が特に高くなっています。



### 1.3 二次予防事業対象者及びリスク該当者に関する分析

- ・第1号被保険者のうち、二次予防事業対象者及びリスク該当者に該当しうる回答者について分析を行いました。
- ・なお本調査では、二次予防事業対象者及びリスク該当者を把握するすべての項目について把握していないため、以下の観点で分析していることを留意する必要があります。

#### 【二次予防事業対象者】

- ・要介護状態等となるおそれの高い状態にある65歳以上の方

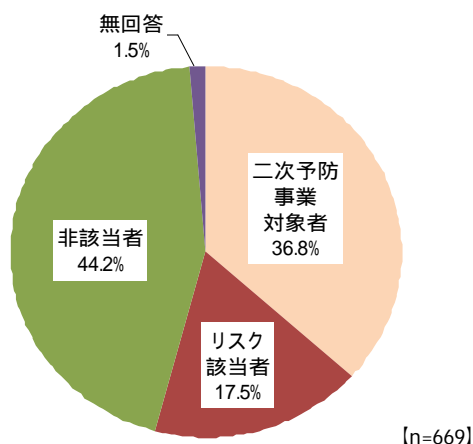
二次予防事業対象者の決定方法	本調査における二次予防事業対象者の決定方法
基本チェックリスト25項目について、以下～のいずれかに該当する者	以下、のいずれかに該当する者
うつ予防・支援関係の項目を除く20項目のうち10項目以上に該当	うつ予防・支援関係の項目を除く16項目のうち10項目以上に該当 (4項目については把握していない)
運動器の機能向上5項目のうち3項目以上に該当	同左
栄養改善2項目の全てに該当	本調査では把握していない
口腔機能の向上3項目のうち2項目以上に該当	同左

#### 【リスク該当者】

- ・二次予防事業対象者ではないが、閉じこもり・認知症・うつ傾向の高い方

リスク該当者の決定方法	本調査におけるリスク該当者の決定方法
以下の～のいずれかに該当する者	以下、のいずれかに該当する者
基本チェックリストのうち閉じこもり予防・支援項目の(16)に該当する者	同左
同上、認知症予防・支援に関する3項目のいずれかに該当する者	本調査では把握していない
同上、うつ予防・支援に関する5項目のいずれか2項目以上に該当する者	同左

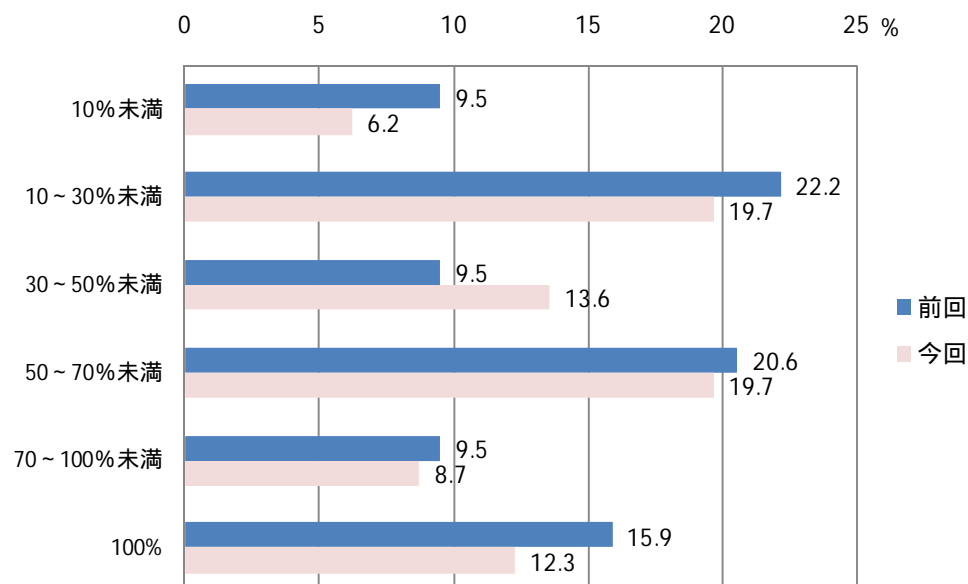
- ・二次予防事業対象者は、36.8%、リスク該当者が17.5%、非該当者は44.2%となっています。



## 2 介護保険サービス提供事業者調査

### 2.1 正規職員の割合

- ・「10～30%未満」、「50～70%未満」がそれぞれ19.7%と並んで多くなっており、前回と比べて大きな変化は見られません。



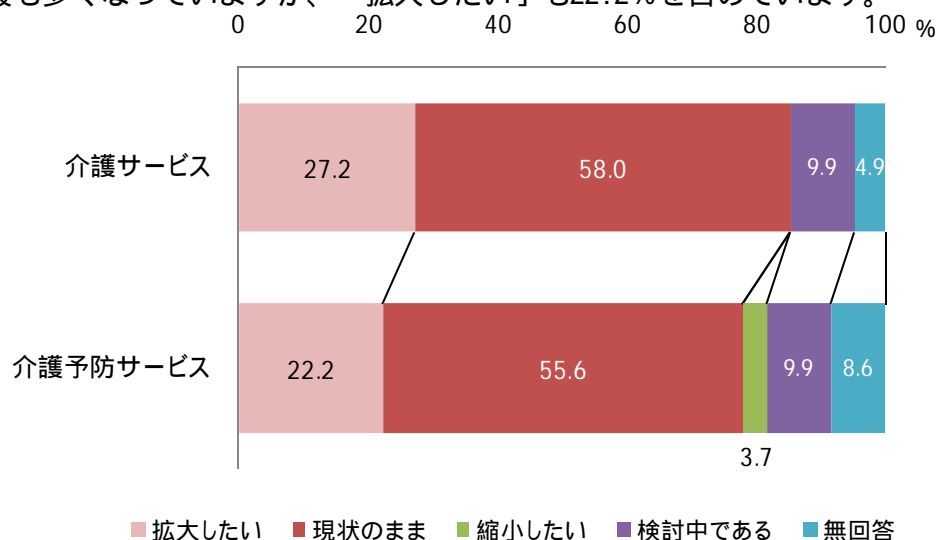
### 2.2 提供しているサービスの規模について

#### 【介護サービス】

- ・今後の提供している介護サービスの規模については、「現状のまま」が58.0%で最も多くなっていますが、「拡大したい」も27.2%を占めています。

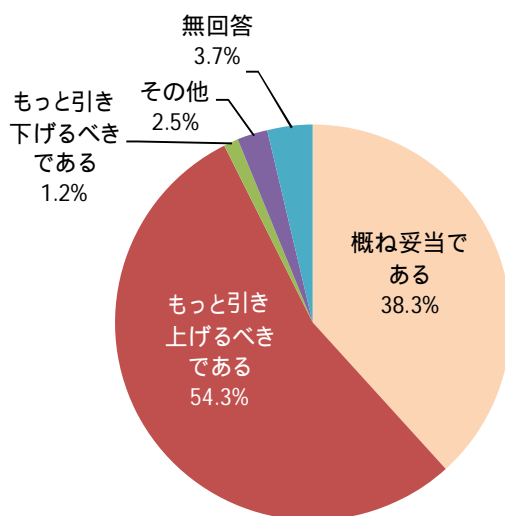
#### 【介護予防サービス】

- ・今後の提供している介護予防サービスの規模については、「現状のまま」が55.6%で最も多くなっていますが、「拡大したい」も22.2%を占めています。

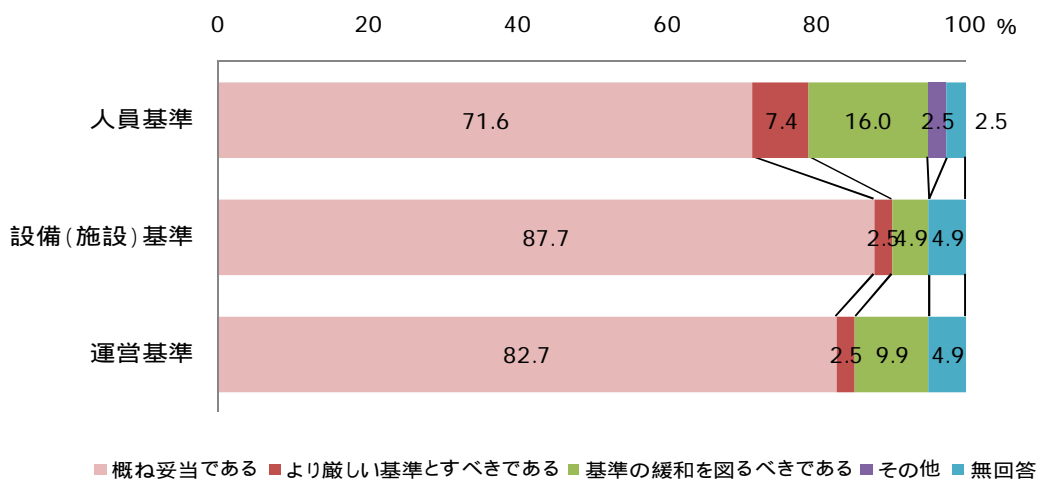


## 2.3 各種基準の妥当性について

- ・現行の介護報酬の妥当性については、「もっと引き上げるべきである」が54.3%で最も多く、「概ね妥当である」が38.3%で次いでいます。

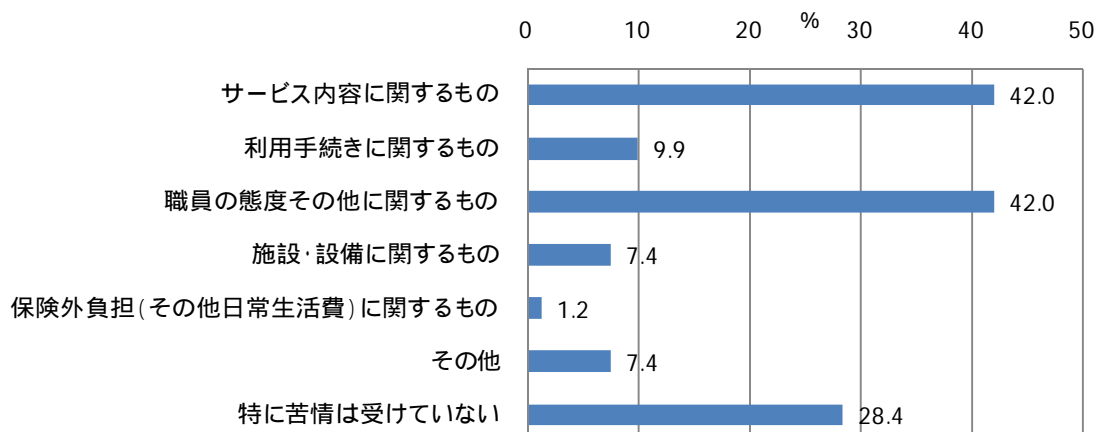


- ・また、人員基準、設備（施設）基準、運営基準についての調査結果は以下のとおりです。



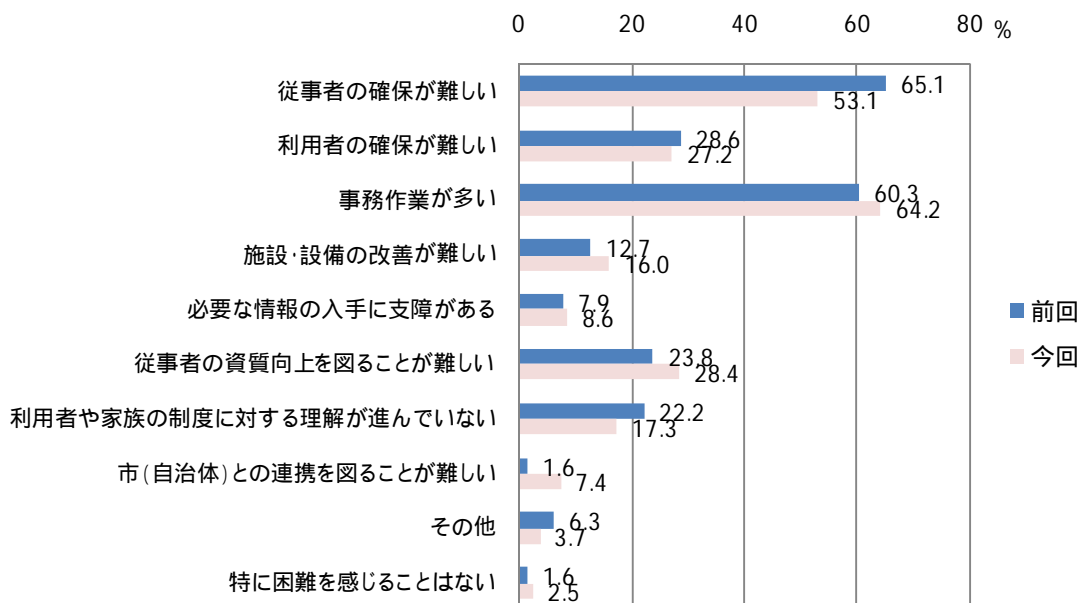
## 2.4 利用者・家族からの苦情

- ・利用者や家族からの苦情内容については、「サービス内容に関するもの」、「職員の態度その他に関するもの」がそれぞれ42.0%で最も多くなっています。



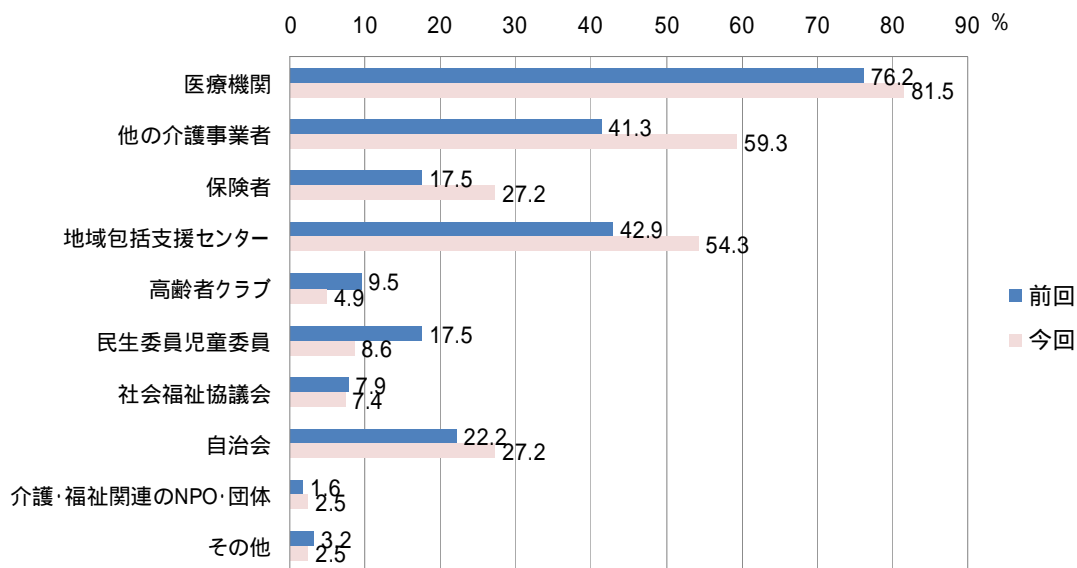
## 2.5 円滑な事業運営を進める上での課題

- ・「事務作業が多い」が64.2%で最も高く、「従業員の確保が難しい」が53.1%で次いでいます。
- ・前回に比べて、「従業員の確保が難しい」の割合が12ポイント低くなっています。



## 2.6 連携が必要な機関について

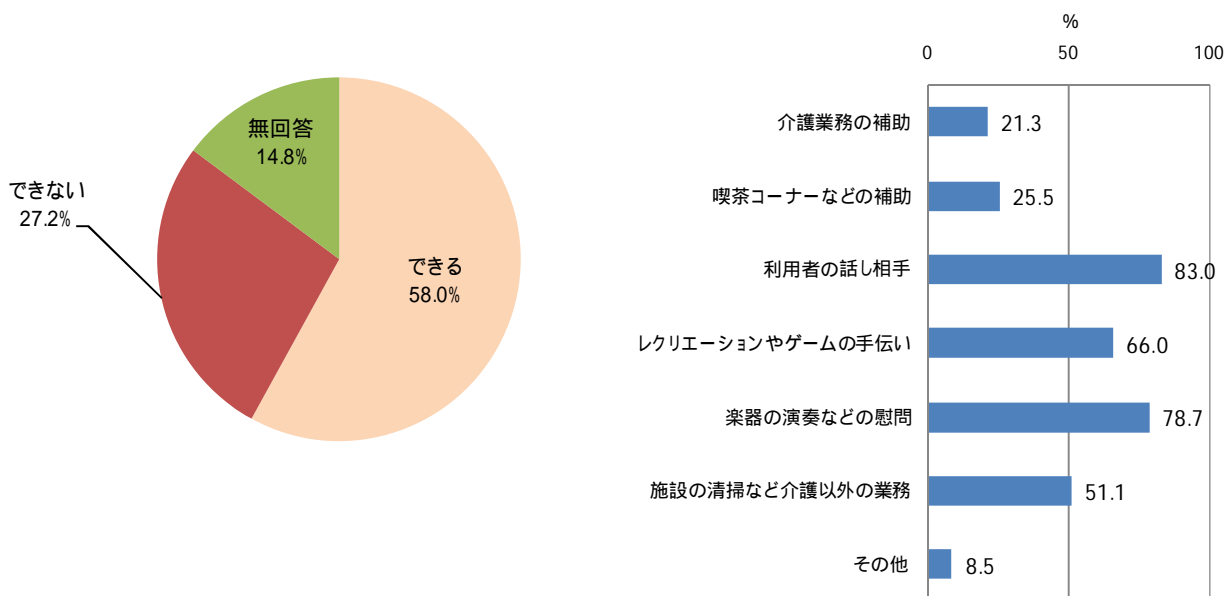
- ・「医療機関」が81.5%で最も高くなっていますが、前回に比べて、「他の介護事業者」や「地域包括支援センター」の割合が11~18ポイント程度高くなっています。



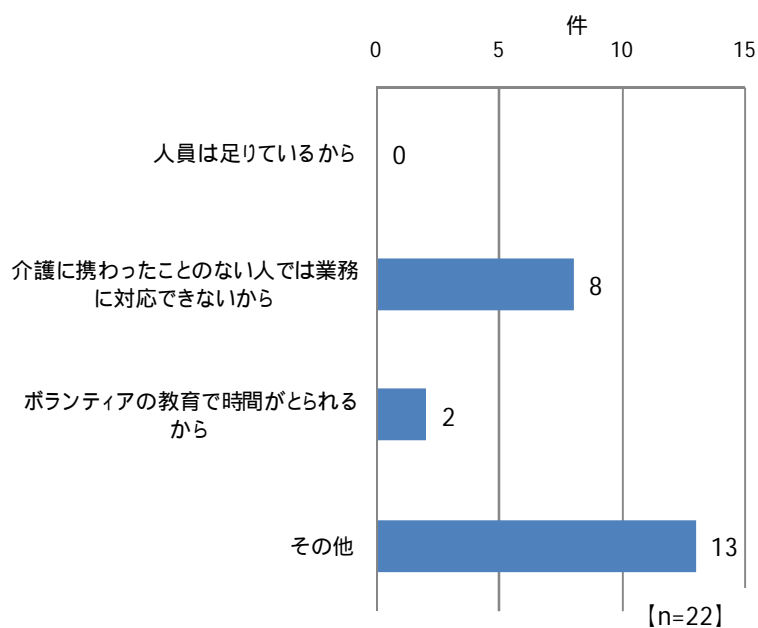


## 2.7 介護ボランティアの受け入れについて

- ・事業者として高齢者の介護ボランティアを受け入れることができるかについては、「できる」が58.0%となっています。
- ・また、ボランティアに任せられる業務については、「利用者の話し相手」が83.0%で最も多く、「楽器の演奏などの慰問」が78.7%で次いでいます。



- ・受け入れができない理由については、その他以外では、「介護に携わったことのない人では業務に対応できないから」が8事業者で最も多くなっています。



江別市高齢者総合計画の策定に向けた実態調査 報告書概要版

平成23年3月

編集 江別市健康福祉部

介護保険課 電話 011-381-1067

FAX 011-381-1073

集計・分析 (株)北海道二十一世紀総合研究所